

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	46	学 校 名	静岡県立藤枝東高等学校	校 長 名	森谷 幹子
------	----	-------	-------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

校訓「至誠一貫」のもと、各方面に優秀な人材を多数輩出する志太榛原地区の拠点校として、文理を融合した教育課程の先進的な研究を進めると共に、学ぶ意欲を高める授業と探究力を育む教育等の実践を通し、グローバルリーダーとして新たな価値を創出し、未来社会を切り拓いていく人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー
8つの力を身につけた「高く 輝き 切り拓く人」の育成を目指す。 ① 協働力…多様な人々と共に物事を進める力 ② 共感力…豊かな人間性で他者を受容し、思いやりを持つ力 ③ 発想力…グローバルな視野で深く多角的に思考しアイデアを生み出す力 ④ 研鑽力…学力や体力、高い知性・教養、人格を磨き続ける力 ⑤ 発信力…よりよい社会づくりに向けて個性を発揮し、考えを他人に届ける力 ⑥ 自発力…自律・自立し、主体的に行動して未来を切り拓く力 ⑦ 統率力…高潔な人格、責任感と的確な判断で人々をまとめる力 ⑧ 完遂力…物事に忍耐強く取り組み、最後まで逞しくやり抜く力
カリキュラム・ポリシー
① 文理融合型教育を推進し、多様な学問分野を結び付け活用・発信する力を育む。 ② 知的好奇心と探究力を高め、新たな価値を創出する力を育む。 ③ 全ての教育活動を通じて、多様性、国際性、豊かな感性等の高い人間性を育む。
アドミッション・ポリシー
① 知的好奇心が豊かで自ら学ぼうとする姿勢を持ち、積極的に行動できる生徒 ② 他者と共同して、積極的に探究活動に取り組む生徒 ③ 多様性を認め、豊かな人間性と他者とのコミュニケーション能力を高めたいと望む生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 学ぶ意欲を高める授業や探究力を育む教育の実践により、生徒の学力向上を図る。
- イ 生徒一人一人が高い志を持ち、その進路実現のための個に応じた支援を行う。
- ウ 様々な教育活動を通じて、多様な価値観を尊重し、豊かな感性と人間性を育む。
- エ 日々の生活において「誠」を尽くし、逞しい心と体を育み、主体的に活動する力を養う。
- オ 保護者・外郭団体・地域等との連携により、存在感ある学校を実現する。
- カ 教育環境の整備・充実及び心理的安全性が確保された学校づくりを進める。

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
(1)	学ぶ意欲を高める授業や探究力を育む教育の実践により、生徒の学力向上を図る。	授業において、探究的学びや生徒が主体的に課題解決を目指す学びを実現することで、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する授業が行われている」と回答する生徒・保護者 85%以上	教務 情報 教科
		授業公開、授業評価、各種授業参観・研修による研究を通じて、授業改善を進める。	公開授業を年間2回以上実施した教員 100% 授業参観を自教科、他教科問わず年間4回以上実施した教員 100%	教務 研修
		生徒が ICT を効果的に活用する授業を実施する。	授業において生徒が ICT を効果的に活用したと回答する教員 85%以上	情報 教科
		各教科の課題の質や量等を、学年で効果的にコントロールし、課す。 また、生徒のニーズや実態に合致した補講・講習を実施する。	「適切な量の課題が出されている」「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する補講が行われている」と回答する生徒 75%以上	教務 進路 学年 教科
		生徒の学力向上に資するテスト作成や指導と評価の一体化を目指した観点別学習状況評価を実施する。	「教科への関心・意欲が高まり学力や技能の向上が実感できた」と回答する生徒 80%以上	教務 教科
		身に付けるべき「8つの力」を意識した授業や総合的な探究の時間を計画・実施する。	「8つの力」の伸長が自覚できる生徒 100%	教科 探究 学年
(2)	生徒一人一人が高い志を持ち、その進路実現のための個に応じた支援を行う。	総合的な探究の時間、LHR、面談等を活用し、生徒一人一人の適性や興味・関心、進路目等に応じた適切な支援を行う。	「志を育む指導が行われている、進路に関する情報が適切に提供されている」と回答する生徒・保護者 85%以上	教務 進路 学年 教務
		進路指導計画（進路指導ロードマップ）に基づき、生徒の志を高め、主体的にキャリアを考えることができるように指導を行う。		
		進路意識を高める進路だより、学年だよりの充実を図る。		
		外部人材等を活用した放課後・土曜日等による、志の育成や学習支援の充実を図る。	「進路実現に向けての学力向上、理解向上に役立った」と回答する生徒の割合が前年度より増加する。	進路 学年
(3)	様々な教育活動を通じて、多様な価値観を尊重し、豊かな感性と人間性を育む。	図書委員会活動の充実とともに、図書館日より及び図書新聞による情報提供を継続実施し、読書習慣を涵養する。	図書委員による読書推進活動年4回以上 図書館を利用した生徒数が前年度よりも増加する。 生徒と教職員による広報誌年間20回以上発行	図書
		「8つの力」を意識した校内大会・体育大会等の学校行事を実施する。	「8つの力」の伸長が自覚できる生徒 100%	生徒学 年体育
		演劇鑑賞教室・文化講演会等を適切に実施する。	参加した生徒の満足度 90%以上	図書
		文武両道を実現するための目標設定や取組を通して、部活動の活性化を図る。	「部活動に意欲的に取り組んだ、活動内容や時間が適切である」と回答する生徒・保護者 90%以上	生徒
		生徒会やJRC部等を中心とし、すべての生徒が地域社会貢献活動に積極的に取り組む。	校外活動への参加生徒数が前年度よりも増加する。	生徒
		修学旅行を始め、生徒が国際交流を行う機会を数多く創出する。	参加した生徒の満足度 90%以上	学年 国際

(4)	日々の生活において「誠」を尽くし、逞しい心と体を育み、主体的に活動する力を養う。	無事故・無違反を目指し、特に登校時の事故や遅刻の防止、交通ルールの遵守（特に自転車）について指導を徹底する。	全教職員による街頭（登校）指導実施年3回 自転車による登下校中の事故年間20件以下	生徒
		挨拶、時間厳守の励行、スマートフォン・一人一台端末の使用等について学年集会等の機会を通して、継続的に指導を徹底する。	「高校生活について適切に指導が行われている」と回答する生徒・保護者90%以上	生徒 学年
		校外主催の様々な行事、コンクール、大会等への参加を促し、生徒の研究心や探究心を育み、社会課題への意識を高める。	生徒の参加数が前年度よりも増加する。	学年 教科
		人権意識の啓発を図るとともに、「いじめ対策基本方針」に基づき、いじめ防止対策を適切に講じる。また、継続的に、いじめ・体罰・セクハラアンケートを実施する。	いじめによる不登校及び生徒指導0件 「頼れる先生がいる」と回答する生徒・保護者が85%以上	生徒 相談 学年
(5)	保護者・外郭団体・地域等との連携により、存在感ある学校を実現する。	P T A等外郭団体との連携により、進路指導支援員、図書支援員、S Cを配置し生徒への支援の充実を図る。	「東高に入学してよかった」と回答する生徒・保護者85%以上	進路 図書 相談
		学校H P及びインスタグラムを広報ツールとして有効に活用し、中学校、地域等への情報発信を的確かつ活発に行う。 さらに、本校の魅力を伝えるポスター、広報動画等の作成、充実を図る。	「情報を適切に伝えている」と回答する生徒・保護者95%以上 地域の中学校への訪問年間3回以上 報道部生徒によるポスター及び卒業生等出演の学校P R動画の作成が実現する。	総務 情報 管理職
		各種行事をP T Aと連携して開催し、P T A活動と学校教育活動両方の活性化を図る。進路研修講演会を効果的に企画し、実施する。	総会や各種行事の出席率50%以上 「参考になった（良かった）」と回答する保護者95%以上	総務 進路
		同窓会等と連携して環境整備等100周年記念事業に係る取組を継続して行う。	「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者80%以上	教科 図書 事務
		中学生の高等学校一日体験入学や公開授業日を通じて、広く中学生、保護者、地域に本校の良さを発信する。	「来校目的を達成することができた良かった」と回答する来校者100%	総務 教務
(6)	教育環境の整備・充実及び心理的安全性が確保された学校づくりを進める。	保健委員会活動を活性化し、保健だよりの発行、薬学講座及び学校保健委員会の開催を通じ、健康管理、病気予防、安全に対する意識啓発を図る。 引き続き感染症予防・拡大予防に努める。	「生徒の健康や安全に配慮がされている」と回答する生徒・保護者95%以上	保健
		健康観察、健康相談及びS Cとの連携等、教育相談を丁寧に進め、生徒や保護者への支援充実を図る。		保健 相談 学年
		清掃委員会を核とし、ゴミの分別・減量・持ち帰り等の意識啓発を図り、校内美化を推進する。	「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者80%以上	保健 事務
		防災計画及び防災訓練等、不断の点検と見直しを進め、改善を図る。	地域防災訓練の参加率向上 「災害・非常時の避難方法や連絡方法を承知している」と回答する生徒・保護者80%以上	総務
		情報管理システム及び組織体制の確立を進める。 よりよいI C T環境整備を促進する。	情報セキュリティインシデント未発生	情報 事務
		C-learningや百問繚乱等のソフトを効果的かつ積極的に活用する。	教職員の時間外勤務時間が前年度よりも減少する。	教科 学年 管理職
		無駄のない、適正な予算執行により、施設・設備、備品・消耗品等の整備を確実に行う。	「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者80%以上	事務